平成30年度　武蔵野市立第一中学校　学校評価報告書

平成31年3月25日

校長　　若槻　善隆

【評価　A:十分に達成されている　B:概ね達成されている　C:達成がやや不十分である　D:達成が不十分である】

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
学習指導	確かな学力の育成 基礎基本の定着	「一中の授業は分かりやすい」と回答した生徒は、現3学年で昨年度より上がり80%を超え、全学年平均87%とほぼ同じであった。保護者は「一中の授業は分かりやすい」が69%、「基礎的な学力が身についている」が80%でわずかに昨年度よりも上がっている。しかし、「授業はわかりやすいか」について、保護者の20%がわからないと回答している。今年度同様、以下の取り組みを行い、肯定的な回答を得られるように生徒達の学力を伸ばしていく。また、保護者への情報を発信していくことが必要である。 ①英語、数学の少人数習熟度別指導　②学習支援教室の実施、TT、TAの活用　③ICT機器の活用　④英検・漢検の実施 各教科の評価・評定について全学年平均では81%の生徒が肯定的な回答をよせているが、3年になると低い傾向にある。卒業後の進路に向けて関心が高まるので、情報をさらに発信していく。	B	・わかりやすい授業をめざし、「教材の工夫」や「本時のねらいの明確化」、「習熟度別少人数指導の充実」、「ICT機器の活用」等で、生徒自身が興味・関心をもって意欲的に取り組める授業改善を行っていく。 ・各教科の授業で基礎・基本事項の確認ができる振り返りを適宜行う。 ・長期休業明けのテストを有効に活用し、成就感や達成感を味あわせ基礎学力を高める。 ・生徒に対する改善策を行うと共に、保護者会や面談等で家庭と連携し生徒の力を伸ばしていく。 ・今後も放課後の学習支援教室を行い、授業の中では学習指導補助員やTAを有効に活用し、個別指導の一層の充実を図り、習熟の程度の低い生徒への学習と発展的な学習内容の指導の充実を図る。 ・評価・評定については最初の保護者会や各教科の授業で説明を行い、学期ごとに配布している「各教科の評価・評定の方法」について情報を発信していく。特に生徒からの質問に対してはわかるように回答していく。	・生徒たちの学力にはそれぞれ違いがある。一人一人の力に合わせた指導を行ってほしい。 ・校内で放課後の学習教室を実施することは大変意義深い。今後も、是非、継続してほしい。 ・それぞれの教科で生徒たちが主体的に興味・関心をもち、意欲がもてる授業を今後も取り組んでほしい。 ・TAやTT、学習支援員などの色々な人材を用いて取り組むことが効果的であると思う。 ・ポスターセッションは年々とても良くなっている。体育館でやっていた時よりも発表の図や絵等を入れ聞き手にわかりやすくなっていて、説得力があった。社会に出たときに必要な力である。 ・ポスターセッションは声も大きくなり、聞き手の視点が入っていてとても良い。来年度も期待している。 ・生徒の興味・関心を高めるためにも理科では実験をやってほしい。今の時代はマッチも擦れない生徒も多い。
	言語活動の充実を通した思考力・判断力・表現力の育成	言語活動の充実を図るために「ポスターセッション」を全学年で実施している。昨年度よりも教員の肯定的な回答が約20%減り、生徒・保護者は昨年度とほぼ同じだった。しかし、学年が上がるにつれて肯定的な回答が減っている。アンケートをとった時期に2年生のポスターセッションは未実施であったが、発達段階に応じた成就感や達成感が味わわせるテーマ設定や準備時間を考えた取組の工夫が必要である。 今年度は年間を通して朝読書を実施し、定着しつつある。さらに、読書活動が充実する環境整備をしていく。	B	・一中の特色ある教育活動の一つでもある「ポスターセッション」については、今年度同様にICT機器を活用や学校行事とタイアップしたテーマ設定をしたり、今後も検討し工夫をしていく。 ・各教科で、言語活動をさらに充実させるために、今後も継続して取り組んでいく。 ・今年度に引き続き、年間を通して朝読書を実施する。昼休みだけでなく放課後も図書館の開放を行っているので、PRを行い、読書活動を推進していく。	
	《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》 〇生徒が興味・関心をもち主体的に学習に取り組めるように、来年度も各教科で授業改善に取り組んでいく。特に、T，Aや学習指導補助員等の効果的な活用を考えていく。 〇基礎・基本的な事項の学習が必要な生徒には放課後の学習支援教室への参加の声かけを積極的に行い、基礎学力の充実に努める。 〇ポスターセッションの各学年ごとのテーマを学年行事とタイアップしたものにし、聞く側の視点に立ち、よりわかりやすいものにしていく。				

【評価　A:十分に達成されている　B:概ね達成されている　C:達成がやや不十分である　D:達成が不十分である】

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
生活指導・進路指導・特別活動	基本的生活習慣の確立 人権尊重の精神の育成	学校評価アンケートでは96%の生徒、97%の保護者が基本的生活習慣を身につける取り組みをしていると回答している。 SNS等の利用については、家族で話し合い、家庭におけるルール作りをし、それを守るようにしている家庭が増えている。昨年度よりも全学年で10%上がり、学年平均では90%の生徒が肯定的な回答を寄せている。セーフティ教室の講演会が生かされ、教科や学活での情報教育も有効であった。 「スクールカウンセラーの活用」について保護者は昨年度「C」「D」「わからない」が31パーセントであったが、今年はSCや市派遣相談員との連携が深まり、24%と減少した。生徒は学年によって差がある結果となった。今後も教育相談活動の一層の充実を図っていく。	B	・今年度から毎日、朝読書があり落ち着いた雰囲気からスタートし、あいさつ運動を生活委員会が中心となり取り組んでいる。生徒の規範意識を高めつつ、教職員でさらに組織的に取り組んでいく。 ・特別支援教育コーディネーターやスクールカウンセラー、市派遣相談員を中心とした教育相談を充実させ、新入生や転入生の全員面接の実施を継続していく。毎日の学校生活の中で教員の意識を高め、生徒の変容を情報共有できるようにする。また、保護者に対しては必要なときに安心して相談できるように情報を提供し環境づくりをしていく。 ・いじめに対しては毅然とした姿勢で、引き続き早期発見、早期対応を心掛け、いじめ対策委員会を中心に組織的に対応する。	・基本的な生活習慣が身についている生徒が多く、学校も落ち着いているようにみえる。 ・地域防災訓練では、生徒がしっかりと動いてくれ、全員が放水訓練をすることもできた。車いす体験もとても貴重な体験になっていた。今年度は起震車体験もあり、充実した訓練になった。 ・SNSが原因の犯罪やいじめ等が社会的に多くなっている。SNSの使い方等、学校での指導を継続的に行ってほしい。特に、中学生になったらスマホを買う家庭も増えてきているので中1から必要である。 ・SNSの使い方について専門家から話を聞く機会が必要である。知らぬ間に子供がまきまれている場合もあるので、保護者も知識を深め見守ることができるようになった方が良い。
	進路指導の充実	進路学習である職業調べやマナー講習、職場体験、高校訪問学習、進路希望調査などの進路指導のについて保護者の「わからない」と回答した割合が1年で45%、2年で26%、3年で4%と学年が進むにつれて減少し、相対的に肯定的な回答が増え3年では92%となっている。1年生での進路学習がアンケートをとった後になることもあるが学年や学校として保護者向けの情報発信を行う。	B	・3年時での進学指導に考えがちであるが、3年間の計画に基づいた「将来を見据えた進路、生き方」についてのキャリア教育であることを今後も学年集会や保護者会を通して保護者の方々へ伝えていく。 ・進学指導の情報提供は、今後も全学年の保護者を対象に実施していく。	
	防災教育の充実	1年で救命救急、2年で防災会や防災課、消防署と連携した地域防災訓練に取り組んでいる。2年の防災訓練では地域の防災会の方たちと充実した訓練を行い、防災に対する意識も高まった。3年間を見通した防災教育を行うことが課題である。 今年度の色々な想定で避難訓練に取り組め教職員の意識も高まった。	A	・2年時に行う地域防災訓練では、災害発生時における避難所としての学校の役割を理解させるとともに地域の一員の要である自覚をさらに高めさせていく。 ・今年度に引き続き、どのような場面でも対応ができるような避難訓練を計画し取り組んでいく。	
	《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》 〇朝学活前の朝読書から全教職員で見守るようにし、落ち着いた雰囲気で始まらせ、全教職員の共通理解のもと組織的に生活指導を行っていく。 〇セーフティ教室で全学年に向けて、関係機関と連携し、SNSやスマホの安全な使い方などを講習する場を設けていく。 〇2年時の域防災訓練を要として、3年間の防災教育を計画的に行い、生徒に地域の一員として、防災等に関わる意識の向上を図る。				

【評価　A:十分に達成されている　B:概ね達成されている　C:達成がやや不十分である　D:達成が不十分である】

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
地域連携	地域から信頼される学校づくりの推進	学校公開を年6回、土曜日に実施し保護者や地域の方からのアンケートを授業改善に生かすことができた。11月の学校公開の来校者が少ないことが課題である。 保護者アンケートでは約95%の方が一中の学校行事である防災訓練、一中フェスタ、体育祭などは、多くの生徒が活躍でき、内容も充実していることや防災訓練や一中フェスタなどを通じて地域との結びつきを大切にしていると回答をしている。各行事でのアンケートでもお褒めの言葉が多かった。 学年通信、学校だよりや学校ホームページ等、できるだけ学校からタイムリーな情報を発信しており、保護者の方からは90%の肯定的な評価をいただいている。ホームページの更新ができていない面があり、課題である。	A	・年6回の学校公開を行い、ICT機器の有効活用や生徒主体の学習活動を積極的に取り入れた授業を公開する。 ・早い時期に、学区の小学校の保護者等に、学校行事や公開授業の案内を送付できるようにする。 ・10月中旬から1か月間は学校に来校する機会が多くなるので、11月の学校公開週間中に「ポスターセッション」を行うなどできるだけ来校しやすくする。 ・「一中フェスタ」では主体的な活動から成就感や達成感を味あわせ、地域の素晴らしさを感じ、将来自分も一中や地域に貢献したいという思いをもたせる。 ・ホームページがリニューアルされたが、まだ更新されていない部分もある。更新すべき記事は早期に更新する。	・学校公開週間が2週間あると参観しやすいので、是非続けてほしい。 ・「一中フェスタ」は地域が生徒と深く関わることができ、生徒や保護者に地域の素晴らしさを感じてもらえるものになっている。今後も続けていきたい。 ・来年度の一中の年間行事予定を早くお知らせしていただくとありがたい。 ・小学校でも外国語活動が始まったので、時間があるならば、中学校の英語科の教員が小学校に来て教えてくれると嬉しい。 ・地域の夏祭りやジャンボリーのサブリーダー等に中学生が参加してくれ、大変助かっている。さらなる地域での活躍を期待している。
	小中連携の推進	井之頭小学校と「小中連携教育研究協力校」として次のような活動をした。 ①小学校で中学校の教員と中学生が、専門性を生かした運動会のリレーの指導 ②小学校の運動会で1年生がボランティアとしてお手伝い ③一中体育祭に小学生が参加 ④中学校で小学校6年生が体験授業、体験部活動 ⑤中学校の一中フェスタに小学生が見学 ⑥中学校の連合音楽会や合唱コンクールの練習、発表に小学生が見学 ⑦小学校と中学校で兼任する開かれた学校づくり協議会委員 ①～⑥では一緒に活動することにより、自己有用感や自尊感情、感謝、思いやりの気持ちが高められ、教員同士も相互理解が深まった。⑦では地域内の校種間の子供の情報の共有化ができ、地域全体の一体感がさらに深まり信頼関係が構築できた。さらに、井之頭小学校だけでなく第一小学校との連携の取り組みも深まった。	A	・小中連携教育研究協力校としての研究は今年度で終わりになるが、一中学区として、義務教育を通して児童生徒の健全育成のために学校行事や開かれた学校づくり協議会の連携をさらに深めていく。特に、一中フェスタについては第一小学校・井之頭小学校・青少協第一地区委員会・青少協井之頭地区委員会との連絡を今まで以上に密にする。	
	地域貢献	青少協や学区内の3つのコミセンのまつりや地域行事に参加しているが、台風のためまつりが中止になってしまったものがあった。また、一中フェスタでは生徒実行委員会と地域とが連携した活動を推進し、生徒が地域との絆をより一層感じることができ、地域との関わりをさらに深めた。 青少協主催のジャンボリーにサブリーダーとして積極的に生徒が参加している。 地域との行事では、放課後や休日の活動になるため部活動や定期考査、習い事等で参加できない生徒が多いことも課題である。	B	・青少協やコミセンとの連携を図り、PTAの協力を得ながら、多くの生徒が地域に貢献できるように努める。 ・ジャンボリーにサブリーダーとして参加する生徒に任されているが、声かけ等で参加を促す。 ・一中の年間行事予定が決まり次第、今年度中に青少協やコミセンに伝え、来年度に向けて取り組んでいく。	
	地域とともに歩む学校	今年度も道徳授業地区公開講座や進路学習・総合的な学習の時間・職場体験等、地域の人材や卒業生、社会福祉協議会等の公共機関の活用をしてきた。 学校便りをコミセンに持っていくなど、学校の様子が地域の方に伝わるよう工夫している。 地域の人材の有効活用が課題である。	A	・今後も地域の教育力を活用し、地域の方に学校の教育活動に関わっていただきながら、地域と学校が連携し共に地域の子供を育てるという視点を大切にしていく。 ・今後もコミセンとの連携を密にするために、コミセンを訪れ、より良い人間関係づくりをしていく。 ・地域コーディネーターの協力を得ながら、人材情報収集のための方法を工夫する。	
	《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》 〇学校公開については、広く地域の方や保護者の方に参観していただくため来年度も今年度同様に行っていく。 〇「一中フェスタ」に向けた学校側の取組をできる限り早くし、今年度同様、生徒と地域が一緒に取り組む体制を作っていく。 〇学校行事を早めにお知らせし、今後も関係小学校や青少協、コミセンとの連携をより密にし、学校に伝えられた地域の行事について生徒に早めに知らせるようにする。				

【評価　A:十分に達成されている　B:概ね達成されている　C:達成がやや不十分である　D:達成が不十分である】

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
学校運営	教職員の協力体制の充実	学校評価アンケートでは保護者の約90%が校長を中心に教職員がみんなで協力していると回答している。教職員の協力体制や教育活動については、概ね肯定的な評価をいただいている。しかし、生徒は教職員の協力体制についてわからないと24%が回答している。今後も引き続き、全職員で協力していく。	B	・教職員間でのコミニュケーションを大切にし、チームとして今後も組織的で円滑な学校運営を心掛ける。 ・学校便りやPTA便り等を利用し、教員以外の職員の紹介を行い、一中の教職員全体像が見えるよう努力していく。 ・教職員の役割を明確にし、教職員の組織力の向上を図り学校評価をもとに改題解決に取り組む。	・学校便りをコミセンにも配布してくれ、学校の様子がわかり楽しみにしている。 ・学校からの配布物である学校だより等は保護者はみているのか疑問に思う。 ・学校のホーム・ページで行事の様子がよくわかり素晴らしい。特に、セカンドスクールや修学旅行等、とてもタイムリーで安心できる。今後も続けてほしい。
	学校情報の充実	トピックスなど、行事を中心に学校ホームページを適宜更新し、情報を提供している。まだ更新していないページがあることが課題であり、個人情報の公開には気を付けていく。 各種たより(学校・学年・保健等)も充実しており、定期的な情報提供ができた。	B	・今後も、ホームページによる学校情報の発信に努め、一中の教育活動が見える学校づくりに励む。 ・ホームページで手を付けられていないページについてはできる限り早く更新していく。 ・ホームページに限らず、各種便りも含めて、内容や個人情報をしっかり吟味しながら、学校情報の充実に努める。	
	《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》 〇各家庭への配布物について、ホームページの活用や保護者会等での案内も積極的に行っていく。 〇学校便りの地域のコミセンへの配布は今後も続けていく。 〇ホームページでまだ修正が行われていない部分について、できる限り早く着手するようにし、行事の掲載は今後もタイムリーに取り組んでいく。				